

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	文化財係	連絡先	76-2386	

計	政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予算事業名	縄文の里史跡整備活用事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	11	事業	05
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
（簡潔にわかりやすく）  
茅野市は「縄文プロジェクト」を策定し、縄文をいかしたまちづくりをすすめている。この中核として、国特別史跡「尖石遺跡」、国史跡「上之段遺跡」、国史跡「駒形遺跡」の保存があり、中ッ原縄文公園、棚畑遺跡、市指定文化財等を含め、『縄文の里史跡整備・活用基本計画』に基づき、縄文の里として整備活用を推進する。また、今後の進め方について、文化庁と協議を行う。

現状と背景  
（どうして）  
『縄文の里史跡整備・活用基本計画』を具現化するためには、史跡等が適正に保存され、良好な状態で維持管理されなければならない。

目的  
受益者  
（誰のために）  
史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民

対象  
対象  
（直接間きかける）  
史跡周辺地域住民、史跡を訪れる市民や、文化財保護活用に取り組む全国民

的意  
図  
（どんな状態にしたいか）  
『縄文の里史跡整備・活用基本計画』に基づき、縄文史跡・歴史的な遺産をまちづくり・人づくりにいかす。

手段・方法  
（どうやって）  
①史跡等の草刈りや日常管理を業者等にイラク氏、良好な状態で維持管理する。  
②史跡の整備について、文化庁と協議を行い、『縄文の里史跡整備・活用基本計画』を推進する。

A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
				1 必要に応じた文化庁との協議	協議率	%	協議実施数/文化庁との必要協議数	100
				2 草刈り実施面積	草刈り実施面積	m <sup>2</sup>	草刈り実施面積/草刈り必要面積×100	100
				3 公園清掃日数	清掃日数	日	9ヶ月×4週×2日	72

変更履歴  
史跡整備・管理事業の統合により、当該事業の活動指標を加えた。

A	N	評価指標の作成	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
				1 公園水道利用数	水道利用量	m <sup>3</sup>	水道利用量	27
				2 詳細分布調査	調査率	%	詳細分布調査面積/国史跡指定面積	90

変更履歴  
史跡整備・管理事業の統合により変更。『縄文の里史跡整備・活用基本計画』の文化庁とのコンセンサスが得られたため、これを削除し、史跡整備・管理事業の成果指標に変更した。

実	施	状	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	85,320	2,416,974	3,085,000		
			財源内訳	円					
			国庫支出金	円					
県支出金	円								
地方債	円								
その他特定財源	円								
一般財源	円	85,320	2,416,974	3,085,000					

実	施	状	況	活動指標	協議率	目標	100	100	100		
					実績	100	100				
					達成率	100.00	100.00	—	—	—	
					目標	m <sup>2</sup>	100	100			
実績	m <sup>2</sup>	100	100								
達成率	%	—	100.00	—	—	—					
目標	日	72	72								
実績	日	72	72								
達成率	%	—	100.00	—	—	—					

実	施	状	況	成果指標	水道利用量	目標	27	27	27		
					実績	m <sup>3</sup>	16	16			
					達成率	%	59.26	59.26	—	—	
					目標	%	90	90	90		
実績	%	48	49								
達成率	%	53.33	54.44	—	—	—					

実	施	状	況	D	O	備考	備	成果指標の調査率：対象面積23,531m <sup>2</sup>
---	---	---	---	---	---	----	---	-----------------------------------

事務事業名	縄文の里史跡整備活用事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	生涯学習部	文化財課	文化財係		連絡先	76-2386

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		文部科学技官に、「縄文の里史跡整備活用基本計画」を説明し、指導を受けた。史跡整備された特別史跡尖石遺跡を中心に、国史跡上之段遺跡・駒形遺跡の保存・管理、整備・活用の方法や方向性の説明に終始してしまい、3割程度のコンセンサスを取得に止まった。	史跡の草刈り、中っ原縄文公園の清掃及び露出展示修復等の委託により、史跡等の価値を損なうことなく適切に維持管理されている。水道利用量の減少はトイレ利用者が少なかったためと推測する。調査率は小学校の縄文・生活科等で調査が行われ、微増ではあるが着実に高くなっている。		
価値（総合評価課題）	成果	考古館係が進めている、特別史跡「尖石石器時代遺跡」整備基本計画(案)に文部科学技官の指導を反映することができた。	国史跡「上之段遺跡」、「駒形遺跡」、中っ原縄文公園は、地域住民にとってかけがえない「宝」であり、良好な状態で維持管理されていることで、文化財保護の意識の高揚が図られている。			
	課題	文化庁協議が国指定史跡ごと行になわれており、「縄文の里」として関連づけた整備・活用の方法や方向性を示すことができていない。「縄文の里史跡整備活用基本計画」に基づく、「面」としての整備・活用方法等の提示が課題である。	業者等への委託により、史跡等は良好な状態にあるが、今後は地域住民との連携による保護・保全活動が望まれる。また、地域住民と文化庁から、駒形遺跡の整備が求められおり、整備のための確認調査の実施に向け、調査体制を整える必要がある。			
改革・改善の方向性（ACT）	翌々年度方向性	成果 拡充 コスト 拡大	現状維持 現状維持			
	改革の方向性の内容	文化財保護法が一部改正され、「文化財保存活用地域計画」という「縄文の里史跡整備活用基本計画」に類似する計画が新設された。計画の内容や補助対象事業等について文化庁に問い合わせ、必要であれば協議を行なう。	史跡等の維持管理は、業者等への委託を基本とするが、地域住民と連携した保護・保全活動の実施を検討する。駒形遺跡の整備に向け、確認調査を実施するよう、文化庁から指導を受けている。早急に調査体制を整え、地域住民とともに調査を行い、『縄文の里史跡整備・活用基本計画』に基づき、縄文の里の基盤を整えていく。			

作成担当者	小林健治	小池岳史			
最終評価責任者	両角勝元	五味健志			
最終評価年月日	元. 5. 17	2020.7.3			